

# モノづくりの産業基盤を活かす

産業のかたちが時代とともに移り変わり、モノづくりの環境が整った宮若市には、世界をリードする自動車産業があります。官民連携によるAI等を活用した新たなまちづくりの推進に加え、豊かな自然を活かした宮若ブランドの特産品開発など6次産業化も進めています。

The shape of industries has changed with the times, and Miyawaka, with its manufacturing infrastructure, is home to a world-leading automobile industry. In addition to promoting new town development employing AI, etc., through public-private partnerships, the city is also promoting agricultural diversification, including the development of Miyawaka-brand specialities that harness the city's rich natural environment.

## 01 SANGYO SHINKOU 日本のシリコンバレーを目指して「リモートワークタウン ムスブ宮若」

市民・行政・民間事業者が協働

日本のシリコンバレーを目指して

「リモートワークタウン ムスブ宮若」とは

宮若市とリテールAI企業のトライアルが協働して始めたまちづくりプロジェクトです。キャッチフレーズは「むすんで、ひらくまち。」遠く離れていてもリモート技術でむすばれて、「まち」も「人」も世界に広くひらかれるまちづくり構想です。



詳しくはHPへ

### 宮若市AI開発センター (MUSUBU AI)



廃校となった小学校をオフィスとして改築。洗練されたデザインは学校の雰囲気を残しつつ、技術者が自由かつ快適に研究開発に打ち込める環境を整え、異業種のメーカーが数多く入居する施設に生まれ変わりました。ここで開発されたAI技術は、市内の店舗での実証実験を経て全国での運用につながります。

### 農業観光振興センター 「みやわかの郷」



宮若市AI開発センターに隣接する「みやわかの郷」では24時間地元の農産物を購入できます。AI技術によって出荷者は自身のスマホからリアルタイムで売上を確認できたり、デジタルサイネージで観光情報を発信したりと新しい小売流通のシステムが採用されています。

### 宮若国際芸術トリエンナーレ「TRiART」

宮若市とトライアル、九州大学が連携して実施するアートプロジェクト。宮若市AI開発センターのほか、廃校となった小中学校のラウンジ等で「ムスブ」をテーマとした国際アートコンペティションの入賞作品や九州を中心に活躍する若手アーティストの作品を展示しています。

## 02 SANGYO SHINKOU 多彩な農産物で魅力ある6次産業化 おいしい宮若ブランドの醸成

### 宮若うまい米コンクール

盆地特有の寒暖差と清らかな水に恵まれた宮若市では、古くから米作りが盛んでした。江戸時代には黒田藩主が好んで食べたという逸話も残ります。2016(平成28)年から開催しているこのコンクールでは、宮若産米の「食べてうまい」の感覚を食味分析計で数値化して総合的に評価します。金賞・優秀賞を受賞したお米はブランド米として販売しているほか、ふるさと納税の返礼品として取り揃えています。



### 認定農業者連絡協議会

市から認定を受けた農業従事者を「認定農業者」として支援しています。米、野菜、果実、花、畜産、加工品など多彩な地域農産物の販路拡大やPRイベントも開催しています。



### 宮若じまん振興会

宮若市ならではのオリジナリティがあるか、その商品が市に根付いているか、市の発展に寄与するかなどの審査をクリアした優れた特産品を「宮若じまん認定商品」に認定しPRしています。認定された商品には「宮若じまん認定シール」が貼られています。



## Column

### 時代とともに進化する 宮若市の産業History

日本の近代化を支えた石炭産業。旧宮田町では明治時代より石炭の採掘が始まり、筑豊最大級の採掘量を誇る貝島炭礦が操業。まちは活気にあふれ、貝島財閥によって鉄道や学校、病院の建設などのまちづくりが進められましたが、エネルギーの転換により1976年に閉山。大きな転換期を迎え、大規模な工業団地を造成し、1991年にトヨタ自動車九州を誘致。「鉱業」の

まちから「工業」のまちへと変貌を遂げました。

現在は全国有数の自動車産業のまちとして発展。最高級車ブランド「レクサス」の約半数以上が宮若市で生産されています。加えて、2020年より官民連携による「リモートワークタウン ムスブ宮若」プロジェクトをスタート。新たな時代の流れに対応したまちづくりが進められています。



## NEW TOPICS

### 農業観光交流拠点&道の駅構想

これまで宮若市の観光を支えてきた脇田温泉や農産物直売所「ドリームホープ宮若」。近年、周辺に宮若温泉郷や農業観光振興センター「みやわかの郷」など新たな観光資源となる施設がオープン。これらとスポーツ施設の西鞍の丘総合運動公園を「農業観光交流拠点」と位置づけ、農産物・特

産品の販売やスポーツ、宿泊を連携することで、市内周遊・集客につなげ、地域の活性化と交流人口の拡大、観光情報の発信に取り組みます。また、拠点機能強化のため、県と連携した「道の駅」の登録を目指し、構想を策定します。

